



甲南だより

令和2年8月10日発行 Vol. 17

夏

よせて

この夏予定されていた夏季東京オリンピックは開催延期となりました。今年世の中が大きく変動しているようです。

”陰極まりて陽となる“

歴史を振り返れば、社会の変化はある日突然訪れるわけではなく、グラデーションを描くように少しずつ変化が起こり、何かきっかけとなる出来事を機に加速する、といった道をたどることが多いものではないでしょうか。

昨年は平成から令和へと時が移り、そして今年、大変革の一端となったコロナ禍は、昨年末よりじわりと勢力を増し続け、春に入り一気に加速。そして陰の底辺部分に突入したかのような動きを見せました。

世の中の動きも人の身体も、何事も行き過ぎると不調和が生じ、そこから中和しようとする自然作用が働きます。そうして陰陽二極のバランスを保とうとする、ある意味道理に基づいた機能なのかもしれません。

曇りがかった様々な情報が飛び交い、混沌とした陰の時節。真夏に向かい、雲隠れしていた事象が燦燦と輝く太陽に照らされ世の中が陽に転じる。

そしていつかまた”陽極まりて陰となる“

惑わされず、慌てず、世の常は善悪に位置する物事も、陰陽一体を繰り返すものだと肝に銘じ、どちらにも流れ過ぎず、自分の軸、土台、信念をしっかりと持ち、中庸にいるようなそんな目で世の中の動きを見ていくのも良いかもしれません。

それぞれの心地よき感覚を大切に

この夏も暑さに負けず、時を過ごしてまいりましょう。

グランドビュー甲南から居室のご案内



<A2タイプ> 2LDK 66㎡

南向きのお部屋です。洋室1には天窓があり、通常のAタイプ(64㎡)より、少し広めです。玄関近くには収納スペースとして便利な納戸を設けています。



<Cタイプ> 1LDK 63㎡

東南のお部屋です。全室に窓があり、明るく風通しも良く、眺望も楽しめます。戸数の少ない部屋タイプです。

空室の2室をご紹介します

<価格一例>

80歳プラン 1,980万円～

その他のご年齢プランもございます。



グランドビュー甲南

詳しいお問合せは ☎ 0120-092-294 までご連絡下さい。





ご入居者様の投稿欄へ

そよ風

グランドビュー展望の

万葉集名歌へのいざない

ご入居者 正田様

武庫の海むくの にはよくあらし 漁いさする

海人あまの釣船つりぶね 波の上ゆ見ゆ

「武庫の海（大阪湾の海）の海面は穏やかに
凪なみいでいるに違いない。漁あまをする海人の釣船が
波の上に見えているよ。」と詠んでいる歌で、
漁師たちの釣船で賑わう大阪湾の光景が目
に見えるばかりに印象鮮明です。

この歌の面白いところは、海面のことを、
「には（庭）」と言っていることです。

私たちも日々、眼下にさまざまな船の航ゆき
交う海を見ているのですが、この歌のように、
この大阪湾を「グランドビューのには（庭）」
と想像してみるのも楽しいではありませんか。

掲載の一首は万葉集巻十五・三六〇九番

詠み人知らずの歌



医療と社会奉仕への実践

ご入居者 杉山様

全国民のショックの抜けきらない終戦直後の十月、続いて不慮
の災害により父を失って呆然自失、十八歳の長男の私を頭の我が
一家は、とるべき手段に迷い途方に暮れました。何をなすべきか。
思い出したのは父の残した遺訓です。「運・鈍・根」の精神と「社
会への絶えざる感謝・奉仕の心」です。母は「患者さんのための
優しい医者になって欲しい」の一言でした。私は医者となった後、
尊敬する先輩・林良材氏より贈られた著書「還暦の町医」に書か
れてある「医の心」を体し、極力努力してきたつもりです。

医師として歩んだ道は大学など官公立の大施設が主でしたが六
十八歳で定年退職、自由の身となった時、私の路線に兼ねてより
理解頂いていた先輩の配慮で次の病院に採用され、社会奉仕とし
てのロータリークラブ活動も併任、一介の町医としてスタート、
念願としていた外的制約のない患者さんのための診療を行える立
場になり、それからの十八年は私にとり最も楽しいものでした。

併し医師としての六十一年間、道はとても険しいものでした。

大病に二回侵され、あるいはダメかなと思ったことにも何回か遭
遇しましたが、絶大な決心をもって嫁いできてくれた妻の献身的
な協力で無事通過できました。彼女は私の意を酌み社会奉仕（国
際ソロプチミスト・クラブ会長）、職業奉仕にこれまた精力的に取
り組み、仕事の上では裁判所に勤め、最後には最高裁判所のご推
薦により国より「藍綬褒章」を授与されました。一介の主婦とし
ては中々できないことです。今は父を失い途方に暮れている私に
諭された「禍を転じて福と為す」の諺を実現できて感謝している
昨今です。

戦後75年

戦後七十五年

終戦時には何をされていましたか

〈薄れる記憶 引き継ぐ記憶〉

戦後七十五年のことし

戦争の記憶だけでなく

戦後の記憶も薄れていく今

忘れることのできない体験 残しておきたい記憶

ご入居者様からいただいた貴重な想いを

昭和二十年七月初めの深夜、空襲警報で叩き起こされます。「戦争」という名の初めての恐怖体験でした。幸い我が家の消失は免れたものの、「これからもっと危ない」という父の考えで、夜が明けると同時にもっと安全な四国の片田舎へ移動することになります。これが、終戦迄の一ヶ月半を思いもかけず過ごすことになった疎開者生活の始まりです。そして、この日から八月十五日までの一カ月半が線です。ながる「私の戦争体験」という事になるのでしょうか。

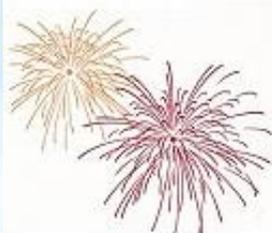
「戦争が終わったのなら早よ帰ろ」と父に無理を言い、早速、焼け残った我が家へ帰ることになりました。窓から押し込められ出入りした満員列車の大変さも、もう忘れてしまいました。

「あの時の苦勞を思うと、今なら何でも出来るね」

今になって思う母の気持ちです。焼け残った我が家は
何事も無かったかのように出迎えてくれました。

私の小学二年生（当時は国民学校二年生）の夏休みは
もうすぐ終わろうとしていました。

昭和十二年生まれ ご入居者



縁故疎開で兵庫の山村にいました。八月十五日正午過ぎ、ラジオから「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」と玉音放送が流れ、大人たちはみな沈痛な面持ちで聞き入っていました。小学生の私は、もう戦争が終ったという解放感と日本が戦争に負けた屈辱感にゆれていました。国全体が貧しく、国民一人一人も平等に貧乏でした。皆、継ぎの当たものを着て必死に働きました。闇屋、担ぎ屋、運び屋などが物資を運び、列車はいつも満員で、窓から出入りする人もいました。皆どこ底からはい上がろうとする活気で、暗さはありませんでした。私はこの活気や勤勉さが資源のない小国日本を経済大国に押し上げた原動力になったと思い、昭和生れ、昭和育ちの世代に誇りをもっています。

昭和九年生まれ ご入居者

その時、道を歩いていたのですが、頭上を米軍機グラマンが三機編隊で、けたたましく飛んでいました。しかし空も町も廃墟のように静まり返っていました。やがて、開け放つ民家の窓からラジオが聞こえ、正午の時報でした。そして、あの玉音放送の音声が聞こえました。それで、戦争が終わったことを知りました。少し前の日に、校庭と庭園の間の道を歩いている時、空にあの戦闘機が機首を下げ、低空で襲ってくることに気がつき、級友数人と側溝にとび込んで隠れました。空をつんざく銃撃音、屋根を転げ落ちる葉蒔の音。身をすくめて真っ青になって、みな震えていましたが、命は助かりました。中学一年生の時のことですが、あの激しい機銃掃射の

恐ろしい記憶は、今もはっきり覚えています。

昭和七年生まれ ご入居者



例年は屋上庭園の満開のサツキとともに、目前で豪快な「鰹の薫焼き」を眺めながら、お食事を楽しんでいただいておりますが、今年は、屋上庭園で焼き上げた鰹を、レストラン内でお召し上がりいただく形となりました。

鰹の表面を高温で一気に焼き上げるので旨味が凝縮し、また表面には薫の香ばしい香りが付き、素材の旨味を味わえます。

黒潮にのって太平洋岸を北上する「初鰹」は、さっぱりしているのが特徴で、旬の走りの「初鰹」は今も昔も人気の初夏の味覚です。

初物をいただくとなんと新たな生命力を得られると言われます。

この暑さは当分続きそうです。体調管理に気を付けて夏を乗り切りましょう。



2020.6.25 (木)

「世界の料理」シリーズとして初登場のこの日は「世界の料理イン台湾」。香りのいいルーロー飯や肉汁たっぷりの小籠包、海老春雨、のり玉スープと、台湾でも人気のお料理を美味しくいただきました。さて次回はどこの国のお料理でしょう、楽しみです。

スタッフ 通信



看護師：田中

田中看護師
って
どんな人？

病院看護師の業務が病気の方の療養のお手伝いをすることに対して、施設看護師の業務は、皆様が元気に生活できるようお手伝いをする事です。

具合が悪くなった時に医療につながることはもちろんですが、その本分は具合が悪くならないよう予防に努めることにあります。「ご近所のちょっと健康について詳しい人とおしゃべりをする」という気持ちで、皆様からお気軽にご相談いただいています。

京都生まれですが、父の仕事の関係で子供のころから京都と東京を行ったり来たりしていました。そのため訛りが混ざって、言葉を聞いただけでは出身がわからないとよく言われます。運動はあまり得意ではないのですが、時々ロードバイクでポタリングをします。一般的なローディーと違ってひたすらひたすらのんびりと、時に上り坂に文句を言いながら走っているローディーを見かけたら、それは私かもしれません。

— 福生物語 —

第四話 神戸福生会の歩み

神戸福生会創立者、中辻直行が高齢者福祉事業にすべてを捧げたのは、自宅を開放して親が開設した養老院で、高齢者と寝食をとみにし、一つ屋根の下で育った経験からです。時代のニーズに合わせるため、先駆的な取り組みに励みました。

今となつては当たり前前の事ばかりですが、例えば昭和五十六年創設の特別養護老人ホーム(以下、特養)永栄園(神戸市西区)は、生活施設としての特養をコンセプトに全室にベランダを設置。平成五年創設の特養長田ケアホーム(神戸市長田区)は、まちなかの特養としての都市型施設。阪神・淡路大震災では、被災高齢者のための被災地支援で浮き彫りになった措置制度の矛盾が、介護保険制度導入への関与の後押しとなりました。新制度導入後、全室個室のケアハウスや特養が可能となり、できるだけ安価で居住性の高い新しい時代の介護施設として、平成十三年ケアハウスこうべ(神戸市兵庫区)を設立しました。

その後、デンマーク型の住居をモデルに改良したものが、グランドビュー甲南に隣接しているケアハウスこうべ甲南(神戸市東灘区)です。この土地には、もとは大正時代から続く豪商の邸宅がありました。養老院時代は施設の建設には地域の厳しい反対がありました。その偏見も解消された今、高級住宅地の中に、その地域に暮らす人に心地よい受け皿をつくりたい、老後に人生の成果を味わっていただけのような質の高い高齢者住宅を、という思いで「グランドビュー甲南」が誕生しました。

セミナー開催のご案内

「老人ホームの種類と選び方」



グランドビュー甲南
ケアハウスこうべ甲南
合同見学会のお知らせ

○セミナー&昼食付見学会

「老人ホームの種類と選び方」

講師：(株)ハッピータイムケア 代表 安藤 公一氏

【ご入居を今すぐ】【お元気な間に】【将来的に】
とお考えの方に

9月20日(日) 11時開始 14時頃終了(予定)

参加費用：500円(昼食代込み)

9月5日(土)までにお電話にてお申込み下さい。



介護付有料老人ホーム
とケアハウスを
同時にご案内します。

※車でご来場の方は、電話申込時にお知らせ下さい。

送迎バスをご利用の方は、
10時45分にJR甲南山手
駅改札前にお越し下さい。



○昼食付見学会 ※セミナー開催はありません

9月10日(木)・17日(木)・26日(土)

11時開始 13時頃終了(予定)

参加費用：500円(昼食代込み)

各開催日の3日前までにお電話にてお申込み下さい。



お問合せ・お申込みは ☎ 0120-092-294 までご連絡下さい。

<ヨコのかぎ>

- ①川の途中や池の出口の水止めのこと
- ②「〇〇〇男に京おんな」この取り合わせがお似合い
- ⑤物の質、値打ちだが、これがあるとか無いとかとも
- ⑥被災者を支援するための寄付金のこと
- ⑦京都高山寺のある地区
- ⑨〇〇〇を張って、キャンプをする
- ⑩2025年に大阪市夢洲(ゆめしま)での開催が決まった万国〇〇〇〇〇〇、通称「万博」
- ⑫株式会社では取締役。法人を代表する権限を有する
- ⑬〇〇を持して登場する
- ⑭分かれ道。人生の〇〇に立つ
- ⑮三重県の町。ここの肉は有名
- ⑰昭和の双子の演歌歌手
- ⑳ものごとが過ぎ去った後に残る余韻
- ㉑政界の〇〇と呼ばれる人あり

	1			2	3	4
5			6			B
7		8	D		9	
10				11		
12	E		13			14
		15			16	
17	18					19
20				21		
	C					



	A
	B
	C
	D
	E

※正解はグランドビュー甲南のホームページ「ホームだより」をご覧ください。又はお電話にてお問合せ下さい。

- ①赤穂浪士が討入り後に向かったところ
- ②最近の若者は〇〇〇〇志向が強い
- ③昔は時代劇で白とか黒〇〇〇が主役の映画あり
- ④奈良の春日大社のこれは圧巻
- ⑤千人針を〇〇〇〇ずつ心をこめて
- ⑥日本三大祭の一つ。京都の夏の風物詩
- ⑧イプセンの戯曲「人形の家」の主人公
- ⑩女性の髪に飾りにさすもの
- ⑮部屋の配置のこと。家はこれが重要
- ⑯昔の台所にあったもの。これで炊くと美味しい
- ⑰雪には、〇〇雪とか細雪とか牡丹雪などの種類が
- ⑱馬をひく職業の人。〇〇にも衣裳
- ⑲詩などで言葉の響き、使い方

↑タテのかぎ

自粛生活中、ご自宅で過ごす時間が増えた方が多かったのではないのでしょうか。自分に合った心地良さを探索し、創意工夫を凝らした方々の声を耳にしました。街からマスクが消え、一時は騒然となりましたが、裁縫が得意な人はマスクを手作りし、また不得意な人でも作る事が出来る簡単マスクの作り方まで、瞬間に普及しました。手作り料理が増えた人、ウォーキングを始めた人、片づけに挑戦した人、SNSでの交流を楽しんだ人、何ら変わることもなくいつもと同じように日常を過ごした人、どれも正解なのか、自分に合った暮らし方、生き方を見出すきっかけとなった暮らし方もありません。「誰か」の物差しではなく「自分なり」の心地良さを大切に。そして、その「誰か」との絆も大切に、過ごしていきたいものです。

編集後記